映画のシーンを利用したリズミカルな発話練習

Mike Canevari (マイ・イングリッシュ) 田淵 龍二 (ミント学習教室)

■ はじめに

Language Learning through Culture --------- Culture Learning through Language

In a society where Japanese is spoken, how can we ever hope to acquire another language. Many of us English language teachers have faced the problem of how to instill English fluency in our students. Oftentimes western cultures and its languages are absorbed in Japanese society after it has been converted into katakana and taken on a different meaning. Since the English language is mostly a subject to learn for the inevitable testings, the motivation for learning is forced onto the students. For any studies, there must be an interest in that topic. To cope with this need for a better learning environment, we at My English and Mint Home School, would like to introduce the western culture as an active vehicle for language acquisition.

Children and adults have enjoyed collections of stories such as Mother Goose, Alice's Adventures in Wonderland and the Wizard of Oz, since its birth. By using these scenes, dialogs, songs and humor, we can not only practice the language but also get a glimpse into the developing stages of the English culture from these early stories. Interest in western culture has always been there. Through these stories, we hope to stimulate the students and peak their curiosity as well as entertain them while learning. For this presentation, we have put together some scenes of its actual use in the classroom setting.

外国語としての英語を取り分けて意識しなくても生活可能な日本での生活をベースにしたときに、英語での発話の動機付けをどのようにして増進するのか?という問題は余りにも大きな問題として英語学習者にのしかかっている。しかも、圧倒的な物量をもって迫ってくる欧米文化をカタカナ語という形でどんどん自国語化してしまう日本語の生命力の前に、英語での発話を動機付けるのは試験や単位と言う脅迫めいた手段をもってしか成立し得ないかの様相を呈しつづけている。わたしたち「マイ・イングリッシュ」と「ミント学習教室」は英語学習の積極的な動機付けを、英語を媒介とした文化コミュニケーションのなかに求めつづけている。英語文化圏の人々のこころの故郷となっているような「マザーグース」「ふしぎの国のアリス」「オズの魔法使い」などの作品を教材として利用している。

今回は、「音声や映像を利用した語学学習を支援する」というテーマのなかで、映画を語学教材として利用する可能性を追及した研究開発の中から、映画のシーンを利用した発話練習(配役ごとの交互発話や歌唱)を中心に据えて実践報告する。

■ 内容

報告では、教材の作成から現場での実施方法までの流れを以下のように紹介する

- 1)映画コンテンツの中の使いたいシーンを、あらかじめ切り出して準備しておく。
- 2) 授業で映画を鑑賞した後、準備しておいたシーンについて、各俳優の台詞ごとに音声を再生するとともに、その音声の文字表現(英語字幕)と意味表現(日本語字幕)をスクリーンに提示する。
- 3) 生徒を各俳優ごとに振り分けて、シーンを再生しながら、発話練習をする。 発表では、開発中の「オズの魔法使い The Wizard of Oz」や「Sound of Music」 などのシーンを利用した授業の様子も紹介する。

また、会話だけでなく、歌唱指導や描写指導についても紹介する。

さらに、比較研究として、映画映像に限らず、静止画を使ったものや、画像のないものなどによる発話授業も行なうことで、映画映像利用の特徴を探る。

■ 実践群の情報

	○ WITT ○ ₩ X Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y
実践群	①教材 ②授業内容 ③1コマの授業時間
	④実施時間 ⑤利用教材収録時間 ⑥受講者 ⑦語学レベル ⑧会場
実践 A	①映画映像を使った発話練習 ②映画「オズの魔法使い」他
	③90分 ④45分 ⑤映像10分 ⑥社会人 ⑦中級 ⑧公民館
実践 B	①映画映像を使った発話練習 ②映画「オズの魔法使い」他
	③90分 ④45分 ⑤映像10分 ⑥社会人 ⑦中級 ⑧一般教室
実践 C	①実用英会話練習 ②歯科衛生士の英会話(独自教材)
	③90分 ④45分 ⑤1節1分 ⑥専門学校生 ⑦中級 ⑧一般教室
実践 D	①静止画朗読を使った発話練習 ②朗読絵本「マザーグース」他
	③55分④20分 ⑤1曲1分 ⑥小学生 ⑦初級 ⑧一般教室
実践 E	①静止画朗読を使った発話練習 ②朗読絵本「マザーグース」
	③30分④10分 ⑤1曲1分 ⑥園児 ⑦初級 ⑧一般教室

■ 設備と教材

- 利用器材はいずれも共通で、講師が以下のものを持参設営した ノートパソコン、プロジェクタ、タブレット、スクリーン
- ・ 朗読絵本「マザーグース」と「ふしぎの国のアリス」はミント学習教室制作 ・ 映画「オズの魔法使い」と歯科衛生士の英会話はマイ・イングリッシュ とミント学習教室の共同制作